

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13127

研究課題名（和文）カンボジア古典舞踊の観光化：観光舞踊が担う「正しい」クメール文化の表象と妥協

研究課題名（英文）Representation of Authenticity in Cambodian Touristic Dance and its Compromise

研究代表者

羽谷 沙織 (HAGAI, Saori)

立命館大学・国際教育推進機構・准教授

研究者番号：10576151

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、カンボジア古典舞踊（ロバム・ボラン）を事例に、継承者たちが質（舞踊教育）と内容（舞台演出・演目）に妥協点を見出しながら、どのように「正しい」クメール文化を表象しているのかの動態を考察することを目的とした。研究を進めるなかで、観光舞踊と呼ばれるジャンルにおいて、カンボジア初ゲイ古典舞踊団Prumsodun Ok & NATYARASA（以下、PrumN）が注目を集めている動きを発見した。本研究ではとくにその創設者のブルムソドゥン・アオク（Prumsodun Ok）およびPrumNを焦点化しながら「正しい」クメール文化の表象をめぐる新しい動きについて調査を重ねた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通してRUFACとPrumNを比較考察するなかで明らかになった性別とセクシュアリティの問題は、近年活発化しているLGBTQの議論にもつながる。男性であること、同性愛者であることを理由に排除せず、わざと資質に舞踊家の本質を見出そうとするディアスポラ民間舞踊学校（PrumN）の教育観は極めて意義深く、ディアスポラ民間舞踊学校がゲイ男性古典舞踊家を包摂した点は新しいロバム・ボランの一つのあり方を表象している。それは伝統文化継承におけるセクシュアリティや広くは教育におけるセクシュアリティの新たな問題を提起している。

研究成果の概要（英文）：This research centers on the case of robam boran (Cambodian classical dance), and analysis to explore the continuities and adjustments faced by performing art education. I examine a range of classical dance education systems, ranging from large, public systems to diaspora-based private entities. In Cambodia, I evaluate the Royal University of Fine Arts, Faculty of Choreographic Arts, Department of Dance, Classical Dance Course. Abroad, I study the Khmer Arts Academy (KAA) which was established in Long Beach, California by Sophiline Cheam Shapiro to serve the largest diaspora Khmer community in the world using approaches that are approximately grounded in RUFAC's pedagogical approach. As an in-between case, I present the example of Prumsodun and NATYARASA Dance Company (PrumN), Cambodia's first gay identified classical dance company, which was established in Cambodia by a diaspora teacher, Prumsodun Ok.

研究分野：比較教育学

キーワード：カンボジア古典舞踊 真正性 観光化 伝統文化 ブルムソドゥン・アオク

1. 研究開始当初の背景

2017年に本研究「カンボジア古典舞踊の観光化：観光舞踊が担う『正しい』クメール文化の表象と妥協」を開始した当初、本研究では、カンボジア古典舞踊(ロバム・ボラン)を事例に、従来とは異なるコンテクストで古典舞踊が消費される過程で、継承者たちが質(舞踊教育)と内容(舞台演出・演目)に妥協点を見出しながら、どのように「正しい」クメール文化を表象していこうとしているのかの動態を考察することを目的とした。そのため、具体的には、グローバル・ツーリズムの流れのなかで徐々に需要が高まってきている観光化されたロバム・ボラン(以下、観光舞踊)を主要な調査対象に据え、1000年以上の歴史を持ち宮廷のなかで継承されてきた正統性を持つとされるロバム・ボランと比較しながら、継承者たちが観光舞踊のどの要素を「正しい」と認めているのかを明らかにしようとした。

研究を進めるなかで、観光舞踊と呼ばれる新たなジャンルにおいて、なかでもとくにカンボジア初ゲイ古典舞踊団 Prumsodun Ok & NATYARASA (以下、PrumN) がカンボジア国内で注目を集めている動きを発見し、本研究ではその創設者のプルムソドゥン・アオク(Prumsodun Ok)とコンタクトを取り、予備調査を実施した。以来、本研究では PrumN を焦点化しながら「正しい」クメール文化の表象をめぐる新しい動きについて調査を重ねてきた。

2. 研究の目的

上記を踏まえ、本研究では観光舞踊の一つとして人気を集める PrumN を焦点化しながら、従来とは異なるアクターがロバム・ボランを継承するなかで、質(舞踊教育)と内容(舞台演出・演目)に工夫をこらしながら、どのように「正しい」クメール文化の表象を遂行しようとしているのか、その動態を考察することを目的とした。PrumN は 2015 年にアオクによってプノンペンに設立された民間舞踊学校である。

ところで、ポル・ポト政権下での弾圧を恐れて、アメリカ、カナダ、フランス、オーストラリアなどの諸外国へ亡命したカンボジア人は 23 万人に上り、そのうち 15 万人はアメリカに定住した。クメール系ディアスポラの中には、アメリカにおいてロバム・ボランの復興に取り組んだ者がおり、たとえばアオクもその一人である。アオクにみるクメール系ディアスポラがカンボジアに回帰するなかでロバム・ボランに新しい視点、創作活動、文化表現がもたらされ、今日の展開に影響を与えている。今日のロバム・ボランの新展開を検討することは伝統文化継承における担い手の変容、すなわちロバム・ボランの継承者とセクシュアリティをめぐるロバム・ボランが伝統文化のなかに性的マイノリティをどのように包摂しようとしているのかという問いについて考察することを意味し、この点において PrumN を主要な調査対象に据えることは非常に重要であると考えた。

3. 研究の方法

(報告者は、2017年10月13日から2018年3月31日において産前産後休暇・育児休業を取得した、2018年2月9日、本課題研究の補助期間の延長を申し出、承認を得た) PrumN に関しては 2018 年からフィールド調査を開始し、おもにアオクおよび舞踊家(5名)への

聞き取り調査（クメール語および英語）、稽古場での参与観察を実施した。聞き取り調査の際には、設立背景と社会的意義（設置の理由、PrumN が目指すもの、社会へのインパクト、LGBTQ コミュニティへの貢献など）、教育内容（師弟関係、指導方法、継承形態）、舞台表現（舞台演出、演目の選定方法、オーディエンスへのメッセージ）が含まれるように留意しつつ、自由度の高い半構造化インタビューを行った。以下は研究方法の詳細である。

【2018 年度】

2018 年度は 2018 年 5 月、8 月、2019 年 2 月の 3 回カンボジアでのフィールドワークを実施した。調査では、PrumN での参加観察およびインタビュー調査を行ったほか、他の観光舞踊については、シナム・リアプ州でのフィールドワークも実施した。観光の文脈におけるロバム・ボランは観光資源としての商業性を持つエンターテインメントとして広くオーディエンスに受け入れられている実態が把握できた。他方現地調査からは、カンボジア女性のエンパワーメント、家父長制への抵抗、性の多様化につながるような社会問題を演劇化するコンテンポラリー舞踊団も出現していることが分かった。ロバム・ボランが従来の枠を超え新しい形へ変容しようとしている動態を確認した。

【2019 年度】

2019 年度はこれまでの調査方法（調査者：羽谷がカンボジアで調査をする方法）に加えて、インフォーマント（アオク）が渡日する機会を利用し、日本においてロバム・ボランについて広く伝える講演の機会を持った（アオクの渡航費、滞在費は本研究費からは支出せず、講演にかかる費用のみ支出した）。京都大学東南アジア地域研究研究所（2019 年 7 月 1 日）、立命館大学（2019 年 7 月 3、4 日）において研究者、大学院生、大学生を対象としたアオクの講演・ワークショップを実施した。このほか、8 月、9 月にはプノンペンおよびシナム・リアプでの現地調査も行った。また 9 月の現地調査では、本研究のアウトリーチ活動・研究成果の社会還元という目的から以下のワークショップを総合私立大学パンニャサ大学において実施した（Introduction Workshop "Who serves as legitimate stewards of Khmer classical dance?-tradition and Modernity" Pannasastra University of Cambodia, Phnom Penh, 2019/09/09）。

【2020 年度】

新型コロナウイルスの影響を受け、カンボジアでの現地調査が叶わなかった。したがってこの間は、アオクを始めとするインフォーマントとはメール、zoom 等を駆使して情報収集を継続するよう切り替えた。2020 年度は本研究の最終年度にあたり研究成果を広く社会へ還元する目的から、2021 年 3 月 26 日「オンライン・パフォーミング・アーツ座談会：命の橋に架かる音色（Phleng Spean Chivit）」の創作をめぐる「阿古耶姫の伝説、伝統、自然」を企画、開催した。登壇者にはアオクのほか、佐藤信（劇作家・演出家）、太田豊（雅楽演奏家）をお招きし、カンボジア古典舞踊の様式を用いて日本の伝統演目を表象することは可能なのか、「正しさ」と真正性（authenticity）のありようについてオーディエンス（約 30 名）とともに考える機会を持った。

4 . 研究成果

本研究を通して、ロバム・ボランを整理する枠組みを以下の図に示すように設定し直した。その際注目したのは、ロバム・ボランの歴史の変遷（コンテキスト）、ロバム・ボランの継承を担う教育機関（アクター）の変容の2点である。

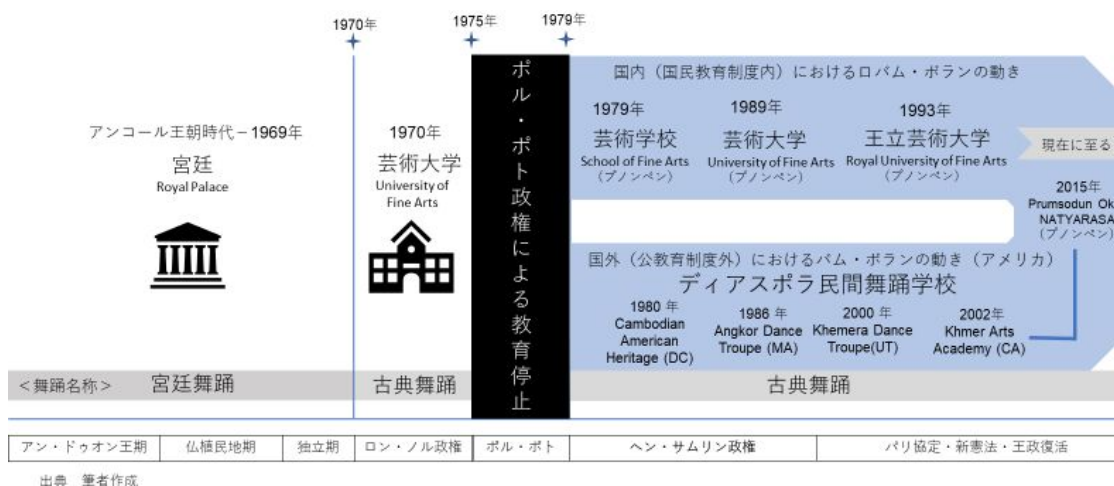


図1 ロバム・ボランを担う教育機関の変遷

[アンコール王朝時代から独立期（9世紀～1969年）]

ロバム・ボランは9世紀のアンコール王朝から伝わる宮廷舞踊として王宮のなかで披露・組織化され、女性舞踊家が継承してきた。国家の「伝統」あるいはクメール民族の集団性を象徴するものとして読み解かれ、その継承は長らく宮廷が担ってきた。

[ロン・ノル政権からポル・ポト政権（1970年～1979年）]

しかしながら反王政イデオロギーを掲げるロン・ノル政権によって、ロバム・ボランは1970年、宮廷から公教育制度下の芸術大学（University of Fine Arts）へ移管された。入学は女兒に限定された。ただし、ポル・ポト政権下では教育停止を余儀なくされ、芸術大学も閉鎖となった。

[ヘン・サムリン政権以降（1979年以降）]

カンボジア国内の動き（公教育制度内） 芸術大学（University of Fine Arts）は、ポル・ポト政権後の1979年、芸術学校（School of Fine Arts）として再出発し、1989年に芸術大学（University of Fine Arts）へと昇格、1993年に王立芸術大学（Royal University of Fine Arts）と名称変更をし、現在に至っている。1970年以降の政情不安のなか、ロバム・ボランの再編と継承、そして正統なクメール文化の表象を担ってきたのは、おもに本国の公教育機関（現在の Royal University of Fine Arts, Faculty of Choreographic Arts, Department of Dance, Classical Dance Course、以下 RUFAC）である。

カンボジア国外の動き（公教育制度外） ただし、ここで重要なことは図1に示すように世界中に離散したクメール系ディアスポラが自発的に立ち上げた、いわゆるディアスポラ民間舞踊学校も、カンボジア公教育制度の外にありながら、その発展に寄与してきたということである。ポル・ポト政権下での弾圧を恐れて、アメリカ、カナダ、フランス、オーストラリアなどの諸外国へ亡命したカンボジア人は23万人に上り、そのうち15万人はアメリカに定住した。クメール系ディアスポラの中には、アメリカにおいてロバム・ボランの復興に取

り組んだ者がおり、たとえば、世界的に著名なロバム・ボラン指導者のソピリン・シナム・シャピーロ (Sophiline Cheam Shapiro) アオクなどを挙げることができる。たとえば、カリフォルニア州ロングビーチ市には、カンボジア国外で最大のカンボジア系コミュニティがあり、全世界に散らばるカンボジア移民社会の中心地となっている。ロングビーチでは、2002年にシャピーロが Khmer Arts Academy を創設し、クメール系住民がロバム・ボランを通して文化的・民族的なまとまりを維持する基盤となった。そして、同アカデミーにおいて研鑽を積んだ卒業生のアオクが、2015年、ロングビーチからカンボジアに場所を移し、同国初のゲイ古典舞踊団 PrumN を立ち上げた。ディアスポラ民間舞踊学校もまたロバム・ボランを再創造するプラットフォームとして重要な役割を持ち、「正しい」クメール文化の表象を担っていることが本研究を通して明らかになった。

最後に本研究を通して浮かび上がったいくつかの論点のうち、以下の点は今後新しいテーマへ発展させる可能性をもつ。RUFAC と PrumN を比較考察するなかで明らかになった性別とセクシュアリティの問題は、近年活発化している LGBTQ の議論にもつながるものとする。RUFAC の学校化が入学者を女兒に制限するという制度を作り出した点は前述した通りである (詳しくは羽谷 (2021))。舞踊家のわざと資質を検討するという観点から本来問われるべき問題としての「ロバム・ボランを誰が継承すべきか」という議論は、それによって、ロバム・ボランを継承すべきは女性なのか男性なのかという単純な性別の議論へと矮小化してしまった。これに対して、ディアスポラ民間舞踊学校は、性別の議論に捉われることなく芸やわざをどのように継承するのかという、より本質的かつ広く豊かな議論を展開するに至っていることが分かった。男性であること、同性愛者であることを理由に排除せず、わざと資質に舞踊家の本質を見出そうとするディアスポラ民間舞踊学校の教育観は極めて意義深く、ディアスポラ民間舞踊学校がゲイ男性古典舞踊家を包摂した点は新しいロバム・ボランの一つのあり方を表象していると言えよう。それは、伝統文化におけるセクシュアリティや、広くは教育におけるセクシュアリティの新たな問題を提起している。RUFAC が今後、入学者の性別に留まらず伝統文化におけるセクシュアリティの問題をどのように乗り越えるかが注目される。このことは RUFAC によって創られた継承の正統性や伝統を再考することにもつながる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Hagai Saori	4. 巻 12
2. 論文標題 Carving out a Space for Alternative Voices through Performing Arts in Contemporary Cambodian Tourism; Transformation, Transgression and Cambodia's first gay dance company.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 77-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00012842	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 羽谷沙織	4. 巻 42
2. 論文標題 書籍紹介 中山京子『グアム・チャモロダンスの挑戦 失われた伝統・文化を再創造する』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 舞踊學	6. 最初と最後の頁 787
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ogisu, T & Hagai, S & No, F.	4. 巻 1
2. 論文標題 Working paper prepared for the Workshop on Impact of ASEAN Community to Basic Education in the Greater Mekong Subregion:Cambodia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 mpact of ASEAN Community to Basic Education in the Greater Mekong Subregion Workshop Report	6. 最初と最後の頁 4-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 羽谷沙織	4. 巻 125
2. 論文標題 カンボジア古典舞踊口バム・ボランの継承における クメール系ディアスポラの影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 315 341
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34382/00014218	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 羽谷沙織	4. 巻 2
2. 論文標題 カンボジア-SDGs時代における新しい教育的取り組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア教育情報シリーズ2巻東南アジア編	6. 最初と最後の頁 109 122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽谷沙織	4. 巻 1
2. 論文標題 比較教育学と国際教育のはざままで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 若手研究者必携 比較教育学のアカデミック・キャリア	6. 最初と最後の頁 172-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 羽谷沙織	4. 巻 63
2. 論文標題 カンボジア古典舞踊ロバム・ポランの継承にみる芸道の徒弟教育 王立芸術大学とディアスポラ民間舞踊学校の比較から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saori HAGAI and Takayo Ogisu	4. 巻 50
2. 論文標題 Cultivating ASEAN Citizenship in the Cambodian Educational Experience : ASEAN Integration, Challenges and Contradictions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館大学国際地域研究所	6. 最初と最後の頁 21-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Hagai Saori
2. 発表標題 Who serves as legitimate stewards of Khmer classical dance? Transgression, gender pluralism and non-formal education in diaspora
3. 学会等名 The 55th Japan Comparative Education Society
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hagai Saori
2. 発表標題 Carving out a gay space in Khmer classical dance: contrary to traditional art forms or trajectory of gender pluralism?
3. 学会等名 World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 羽谷沙織
2. 発表標題 カンボジア タイを越境する子供たちボーダースタディーズの手法を用いた現地調査報告
3. 学会等名 国際教育研究フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 羽谷沙織
2. 発表標題 境界研究の分析法を用いた国境・境界地域における基礎教育に関する国際比較研究：カンボジア タイ事例
3. 学会等名 森下穂科研代表者ボーダー研究第2回打ち合わせ研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ハート・フォイヤー & 羽谷沙織
2. 発表標題 アジアにおける地域農業振興の道具としての GI の 潜在力：日本とカンボジアの比較から
3. 学会等名 ロツテ財団第 4 回（2017 年度）研究助成事業若手研究者研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 羽谷沙織 石川涼子 カンダボダ P.B. 筆内美砂 堀江未来 村山かなえ リム・クリスティーナ
2. 発表標題 多文化間共修 Cross Cultural Encounters の教育実践 他者との出会いから創造する学び、二言語アプローチの意義
3. 学会等名 大学コンソーシアム京都第24回FDフォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 羽谷沙織
2. 発表標題 「伝統の継承者は誰か カンボジアのゲイ古典舞踊団が担う伝統、逸脱、観光」
3. 学会等名 立命館大学・人文科学研究所 重点プロジェクト「グローバル化とアジアの地域」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 羽谷沙織
2. 発表標題 カンボジアのゲイ古典舞踊団が担う伝統と逸脱：ジェンダー、正統性、境界
3. 学会等名 第 2 回 東南アジア教育研究フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saori HAGAI
2. 発表標題 Reevaluating tradition: Gender, transgression and Cambodia's first gay dance company
3. 学会等名 国際教育研究フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saori HAGAI
2. 発表標題 How Does ASEAN Integration Affect Basic Education in the Greater Mekong Subregion?
3. 学会等名 Biennial Comparative Education Society of Asia (CESA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Saori Hagai
2. 発表標題 Who are the caretakers of tradition in Khmer Classical Dance?: Transgression, gender and Cambodia's first gay dance company
3. 学会等名 the 11th Biennial Comparative Education Society of Asia (CESA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 羽谷沙織
2. 発表標題 カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承におけるクメール系ディアスポラの役割
3. 学会等名 第4回東南アジア教育フォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Saori HAGAI
2. 発表標題 Contributing to Social Transgression through Dance: Gender, Diaspora and Cambodia's First Gay Classical Dance Company
3. 学会等名 The 2020 Yokohama Sport Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

2021年3月26日「オンライン・パフォーマンス・アーツ座談会：命の橋に架かる音色（Phleng Spean Chivit）」の創作をめぐって 阿古耶姫の伝説、伝統、自然」を企画、開催した。登壇者にはアオクのほか、佐藤信（劇作家・演出家）、太田豊（雅楽演奏家）をお招きし、カンボジア古典舞踊の様式を用いて日本の伝統演目を表象することは可能なのか、「正しさ」と真正性（authenticity）のありようについてオーディエンス（約30名）とともに考える機会を持った。

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Special Lecture Forming Cambodia's First Gay Dance Company, Toani Tei, Inamori Foundation Building, Center for Southeast Asian Studies (CSEAS), Kyoto University	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Special Lecture Tradition & Social Change Prumsodun Ok : founder of Cambodia's first gay dance company, Ritsumeikan University	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Online Performing Arts Seminar "Phleng Spean Chivit (Music on the Bridge of Life)"	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

カンボジア	Prumsodun Ok & NATYARASA			
-------	--------------------------	--	--	--